

11 教員組織

進捗状況報告

【11.0.1 教員組織】

学部コース制における卒業生を輩出する2008年度に、前期課程にもコース制を導入するよう学則改正を行った（キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）。同時に研究分野も、聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野の4つに再編することを決定している。

本学において教員は基本的に学部所属し、大学院教員は学部教員からの任用であることから、まずそれを前提とし、大学院教員組織の全体像を検討するなかで、さらなる活用を模索している。

女性教員は現在のところ学部でのみ在籍しているが、兼任教員として大学院授業科目の担当が可能である。

【11.0.2 教育研究支援職員】

教育への支援体制につき、教務補佐・教学補佐による授業資料の準備、授業のための視聴覚機材の設置・操作など最低限の水準を確保し得ているが、いわゆるティーチング・アシスタントの役割につき、具体的な授業科目や内容について将来構想委員会・カリキュラム研究委員会で検討を開始している。

【11.0.3 教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続】

大学院教員への任用については、神学研究科委員会内規を改正し（2006年度改正、2007年度施行）、明記された研究業績に照らし、適切に審査・任用していく体制が整った。

教育研究領域拡大の課題については、2006年度より「副指導教員制度」を整備した。また同時に「指導教員変更制度」を設置することで、学生の研究テーマの変更にも柔軟に対応できるような体制を整えた。

【11.0.4 教育研究活動の評価】

研究業績の公開については、引き続き努力をしている。研究業績データベースの更新状況はよくなっている。また、学内紀要である『神学研究』掲載論文については著作権処理を適切に行い、国立情報学研究所の論文情報データベースにおいて無償公開しているほか、今後稼動が予定されている学内リポジトリへの登録・無償公開を進めており、学内外へ周知されることによって新たな成果の利用方法が期待される。通常時の業績評価について明確な基準は設けていないものの、大学院教員の任用などの際には、神学研究科委員会内規に沿って適切な評価がなされるようになっている。

【11.0.5 大学院と他の教育研究組織・機関との関係】

他大学研究科との教育・研究交流については、継続して計画立案を検討する。すでに実績のある延世大学（韓国）に加え、学術文化交流協定校であるベルン大学（スイス）およびメソジスト神学大学（韓国）との大学院生相互受け入れについて可能性の検討を進める。

学内第三者評価

前期課程に「思想・文化コース」を新設し、同時に研究分野の再編を行ったことは評価できる。

前期課程における、在籍学生数/定員数の比率が文系研究科の中でも抜きん出て高く、理工学研究科の比率に近い。教員の負担も大きくなっている。